

IAMAS ARTIST FILE #02

9.28 (日)

前田真二郎・齋藤正和

14:00 ~ 16:00

## 「記録と行為／映像表現の現在形」

上映：

『日々 “hibi” AUG 7 years mix [2008-2014]』（約 60 分）

2014 / デジタル / カラー / 60 分 / 前田真二郎

作家コメント：

10 年前、映画『日々 “hibi” 13 full moons』を制作しました。これは、2004 年の元旦から 1 年間、毎日ワンカット 15 秒を順番につなげていくことで完成する映画でした。カットの長さだけでなく、毎日の撮影する時間帯にも規則を設定しており、それは月の運行と連動したものでした。満月の日は深夜 0 時に、半月は朝 6 時に、新月は正午に、次の半月には 18 時といった基準をもとに毎日、撮影する時間帯がずれていくのです。ワンカットごとに撮影日が異なるにも関わらず、なだらかに朝、昼、夜が連続し、それが繰り返す構成が生成されました。毎日のショットは、偶然の出来事をとらえた日もあれば、構成を考慮してわざわざ人に会いに行った日、気分が乗らず適当にしか撮れなかった日もありました。

本作を「日記映画」や「ライフログ」と解釈する人もいるでしょうし、私もそのような側面を説明することもあります。しかし、私自身の生活を正確に記録したいという欲求はありませんでした。作者の関心の第一は撮影者の意図を越えて多様な情報が残されていく映像の特性にありました。そして、撮影をすすめながら、映像メディアに潜む強力な記録性や、非演出のカットをつなげただけでもフィクションが発生する不可思議さに触れ、その得体の知れない両義性に強い関心を抱くようになっていきました。鑑賞者が能動的な視覚体験を獲得するような、私にとって目指すべき「映画」がその地平にこそあるのではないかと ... それは今でも考え続けています。

前作から 4 年後にあたる 2008 年に、もう一度、同じ形式の映画を制作することを思いつきました。ところが 1 月の数日で撮影は続かなくなり中止しました。続かなかった理由はいくつか考えられるのですが、本当のところは分からないでいます。そして、この年の 8 月に 1 ヶ月だけ撮影することにしました。毎年、8 月は移動が多いので楽しく撮影ができるのではないかと考えたのです。そしてそれが完成したとき、8 月の 1 ヶ月間を 12 年間つなげて、前作と同じ尺の作品として並べてみたいと妄想しました。完成は 2020 年となります。8 月は、私にとって戦争を意識する特別な月であると認識したのはこの数年のことです。

### 前田真二郎

1969 年大阪生まれ。情報科学芸術大学院大学 [IAMAS] 教授。映画、ビデオアート、ドキュメンタリーなどの分野を横断して、国内外の映画祭や展覧会で発表を続けている。WEB ムービー・プロジェクト『BETWEEN YESTERDAY & TOMORROW』が第 16 回文化庁メディア芸術祭・アート部門にて優秀賞を受賞。DVD レーベル SOL CHORD の監修をつとめる。

連絡先：maeda@iamas.ac.jp

### 澤隆志（トーク・ゲスト）

1971 年生まれ。映像作家・キュレーター。2001 年から 2010 年まで、映像アートの国内巡回上映展「イメージフォーラム・フェスティバル」のプログラムディレクター。現在はフリーランスで国内外の映画祭や「あいちトリエンナーレ 2013」などの美術展で映像プログラムを担当。